

[令和 8 年度総括評価表]

学校名：徳島県立鳴門高等学校

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		
地域の活性化に つながる探究的 な学びの育成	I) 「夢をかたちに」するために、常 に自ら学び続ける力を育成	評価指標 I) ① 家庭で予習・復習やテスト勉強を計画的に している生徒の割合80%以上。 ②-1 1 年次の進路志望調査による第Ⅰ志望への 進学率50%。 ②-2 2 年次の進路志望調査による第Ⅰ志望への 進学率80%。 ②-3 進路希望が明確な生徒の割合Ⅰ年次90%以 上、2 年次95%以上、3 年次98%以上。 ③ 生徒・教職員・保護者による図書の貸出冊数 が、年間1,800冊以上。 ④ EducationプログラムⅠ・Educationプログラ ムⅡを受講してよかったと思っている生徒の割合 がともに90%以上。	評価指標の達成度	総合評価 (評定) (所見)	
	II) I C Tを効果的に活用し、地域の 課題を探り、解決策を考える力を育成	II) ① -Ⅰ ICTを効果的に活用する授業が展開され、 生徒自身が主体的にICTを活用していると思う生 徒の割合75%以上。 ① -2 ルールと責任を守り、目的に応じて適切に AIを活用することができていると思う生徒の割合 75%以上。			
	III) 地域と連携し、地域の活性化に貢 献する力を育成	III) ① 地域と連携した活動により、地域の活性化に 貢献していると感じる生徒の割合70%以上。 ② インターンシップ・校外体験学習等の参加者 70名以上。 ③ 美術部で地域の交通安全活動にⅠ回以上参 加。 ④ 書道選択生で、地域の人権文化祭に作品をⅠ 回以上出品。			
	I) ①教務課・教科 ②進学課 ③図書課	活動計画 I) ① 面接週間やコース・科目選択期間中の担任に よる生徒面談を通して、学習課題の取組状況や学 習時間を把握するとともに、考査Ⅰ週間前の意識 づけを行う。 ② 補習や各大学・専門学校等のオープンスク ールへの参加を促す。 ③ 毎月Ⅰ回新刊や展示を紹介する「図書館だよ り」を発行し、Classi・HPに掲載して、図書館を 活用するよう働きかける。	活動計画の実施状況		

	④E プロ	④ 4月～12月までに、EducationプログラムⅠではLesson1～Lesson7を、EducationプログラムⅡではLesson1～Lesson6をそれぞれ28時間の講座を実施する。年次末には、7時間かけて、それぞれ1年間の学びのリフレクションを行い、発表資料をまとめて合同で成果発表会を開催する。				
	Ⅱ) 情報課・教科	①-1、2 共通アプリケーション、授業及び学習方法、危険管理対策、端末の運用管理、生成AI使用時のモラルとマナー等について教員研修を実施し、全教員がICTを活用した授業を行う。				
	Ⅲ) 企画推進課・各年次主任・教科・部活動	①-1 地域のボランティアガイド会と連携しフィールドワークを実施する。また、鳴門市役所、鳴門市教育委員会や鳴門教育大学と連携し、講座や講演等を年3回以上実施する。総合的な探究の時間では、地域の魅力や課題解決策を探究し成果発表会で発信・提言する。 ①-2 公民科において、社会課題に対する見方や考え方を身につけ、提案する解決策の妥当性や効果、実現可能性を探る授業を実施する。鳴門市議会事務局と連携し、学びの過程と成果を鳴門市『議会だより』に掲載し、地域に向けた発信も行う。 ③ 美術部で交通安全を呼びかける作品を制作し、交通安全運動に参加する。 ④ 書道選択生で、地域の人権文化祭に出品する作品制作をする。				
「グローバルな視点」を持って地域社会に貢献できる力の育成	I) グローバルな視点を持ち、社会の一員として行動できる力を育成	評価指標 ① 「全教科」を通じ、グローバルな視点を持って社会の課題を多面的に分析し、自分の意見を持って行動できる力が付いたと感じる生徒の割合85%。 ② 海外での語学研修や交換留学生の受入れ、海外交流提携校とのオンライン交流プログラム等に参加する生徒30名以上。 ③ 鳴門の魅力や可能性を客観的に捉え、地域資源を生かした持続可能な取組を提案するための授業を行う。	評価指標の達成度	総合評価 (評価) (所見)		
	Ⅱ) 知識及び技能、思考力、判断力、表現力等学びに向かう力、人間性等の育成	① 英検・漢検等の資格を取得した生徒数100人以上。 ② 部活動に参加している生徒の割合85%以上。ボランティア活動への参加生徒40人以上、参加部活動有志5部以上。 ③-1 毎日挨拶をする生徒の割合90%以上、自ら挨拶する生徒の割合50%以上。 ③-2 遅刻件数年間1,000件以下。				
	Ⅲ)					

	鳴門教育大学などの関係機関や外部人材との連携	① 鳴門教育大学などの関係機関や外部人材との連携が「できている」、「ややできている」と感じる生徒の割合80%以上。				
	Ⅳ) 人権教育の推進	①-1 板野支援学校との交流会を年1回実施、のべ80人以上参加。中高生等による人権交流集会へ10回以上参加。 ①-2 人権を意識した行動ができたと感じる生徒の割合100%。				
	I) ①全教科 ②国際交流 ③教科	活動計画 ①-1 SDGsに関するテーマを用いた授業展開を10以上実施する。 ①-2 2年次において、グローバルなテーマを用いた授業展開を10回以上行う。 ② 国際交流への参加を促すとともに、英語で意見を発信し対話する。 ③ 家庭科において、鳴門教育大学講師によるエンカル講演会を実施するとともに、同大学との交流実習を通して地域の魅力を再発見する。	活動計画の実施状況			
	Ⅱ) ①進学課・就職課 ②特別活動課・生徒指導課 ③特別活動課・生徒指導課	①大学入試や就職試験に活かせるよう、英検・漢検等の検定や資格試験の案内を積極的に行い受験を促す。 ② 地域のボランティアや各諸機関の啓発事業等の案内・周知に努め、部活動有志として参加する。 ③ 生徒会をはじめ生徒主体の活動を通して、挨拶習慣や遅刻削減に向けた取組みを推進する。				
	Ⅲ) 進学課・企画推進課	① 鳴門教育大学大学院生によるフィールドワークの実施、フィールドワーク中の大学院生によるTT授業、放課後週2回個別補習「Miraiサポート」を開催。学校運営協議会を年3回開催し、地元地域、大学や企業と、連携・協働し、協議を深める。				
	Ⅳ) 人権教育課	① 板野支援学校との交流会の計画・準備・実施、中高生等による人権交流事業への参加、HR活権・人権教育行事の実施。				
地域に開かれた 安心して安全な学校や社会を醸成 する心の育成	I) 「生きる力」を育み、自他の命を尊重する、豊かな人間性を育成	評価指標 ①-1 自転車事故10件以下。 ①-2 ヘルメット着用者50人以上。 ②-1 ストレスや悩みに対して解消する力や相談できる力が付いたと感じる1年次生90%以上。 ②-2 悩み事を相談できる人がいる生徒の割合90%以上。 ③ ユニバーサルデザインの授業で高齢者・認知症・障がい者などについて理解を深め自他を尊重し豊かな人間性を養う。高齢者等への理解が深まった生徒、ユニバーサルデザインの授業履修者で85%以上。	評価指標の達成度		総合評価 (評価)	
	Ⅱ) 社会を生き抜くための実践力の育成	①-1 消費者としての権利と責任を理解し、社会に対して責任ある消費行動をしていきたいと考える生徒の割合80%以上。			(所見)	

		①-2 主体的に社会に参画していきたいと考える生徒の割合90%以上。 ② いつどこで起こるか分からない災害に対応する力を養う。避難集合場所に自分自身で避難できる生徒95%以上。				
Ⅲ) P T A・同窓会との連携を図り、地域に開かれた学校づくりの推進		① PTA行事の総会参加者250人以上、その他各行事の参加者15名以上。				
I) ①生徒指導課 ②教育相談課 ③ユニバーサルデザイン	活動計画	①-1・2 毎月0の付く日に駐輪指導・立哨指導を実施する。鳴門市小・中学校と連携し、ヘルメット着用や自転車マナー向上等の啓発活動を年2回実施。ヘルメットアンバサダーを中心に着用促進・啓発活動を実施。 ②-1 スクールカウンセラーと連携し、1年次のHRでストレスチェックやストレスの発散の仕方・リラックス方法を学ぶストレスマネジメント講座を実施する。 ②-2 支援の必要な生徒の早期発見のため、教職員対象に生徒の実態把握を行い、気になる生徒には個別に面談を行ったり、スクールカウンセラーの活用等を勧めたりする。 ③ ユニバーサルデザインの授業において健祥会などの出張講義を利用し、高齢者疑似体験や認知症VR体験、ADHD等についてのVR体験を行い、高齢者や障がいのある人等への理解を深め、ユニバーサルデザインの視点で考える。	活動計画の実施状況			
Ⅱ) ①消費者教育・主権者教育 ②環境防災教育		①-1 家庭科の授業や専門家による消費者教育講演会の実施などを通して、賢い消費者として行動し、実践する力を養う。 ①-2 公民科の授業において、鳴門市議会事務局と連携し、社会参画力を育む授業を構想し、実施する。 ② 休み時間に避難訓練を実施し、各自で避難できる力を養う。				
Ⅲ) 企画総務課		① PTA総会の案内を担当を通じて生徒に配布して、保護者に必ず渡すように、担任に依頼する。また、その日の夕方にClassiで案内文書を生徒を通じて持ち帰ってもらっていることを伝達する。締切日にまだ提出されていない保護者の方は翌日、提出していただけるよう再度、配信する。				

【備 考 ：「総合評価」における「評価」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった